

平成 25 年度第 2 回さぬき市子ども・子育て会議

1 日 時 平成 26 年 2 月 26 日（水） 18：00～19：45

2 場 所 さぬき市福祉事務所 201・202 会議室

3 出席者

[委 員] 佐竹勝利 松本吉弘 杉浦修造 吉本嘉夫 鈴木貴子 白井理恵
富田晃子 吉・正和 大西由美 長町邦子 宮本暢子 筒井美佐子
[事務局] 和田浩二 中村淑子 安富眞司 多田千稔 山田裕子
六車正徳 谷訓昌 永坂邦彦 黒川久美子
[傍 聴] 1名

4 議 題

アンケート調査結果速報について
さぬき市の現状について
区域設定について
その他

5 会議の内容は次のとおりである。

発言者	意見概要
事務局	本日の会議ですが、委員 15 名中 9 名の出席がありますので、さぬき市子ども・子育て会議条例第 5 条第 3 項の規定にあります、過半数を超えていることから会議を開くことができることをまずご報告させていただきます。 それでは早速ですが、平成 25 年度第 2 回さぬき市子ども・子育て会議を開会させていただきます。まず、野崎委員から主任児童委員会会長交代に伴い、委員辞職の申し出がありました。新たに富田晃子さんに委員委嘱を行います。任期につきましては条例第 3 条第 2 項の規定に基づき、前任者の在任期間とさせていただきますと思います。まず富田晃子さんに委嘱状の交付を行いたいと思います。
事務局	【委嘱状交付】 それでは早速議事のほうに移らせていただきたいと思います。さぬき市子ども・子育て会議条例第 5 条第 2 項の規定により、会長は会議の議長となることとなっておりますので、このあとの議事につきましては会長のほうでよろしくをお願いします。
会長	皆さん、お久しぶりでございます。こういう時間帯からではありますけれども、またいろいろとご意見などいただきたいと思います。今日は報告のほ

事務局
会長

うが中心になるかもわかりませんが、ご協力の上よろしくお願ひしたいと思ひます。議事が3つと、それからその他が用意されています。まず一番最初にアンケート調査を行ったその結果の速報ですが、これについて事務局のほうからご報告をよろしくお願ひします。

(事務局説明 議案第1号)

これにつきましては事前に送られてきておりますのでお目通しいただいたのではないかとと思ひますが。これは速報ですので、とりあえずこういう結果が出ているということで何かお気付きのことなどございましたらお願ひしたいと思ひます。一応順番に見ていきたいと思ひます。1は調査の概要ですが、ただいまのご報告にありましたようにこの期間に出ました結果で回収率は非常に高いということですね。特に小学校の場合には、これはすべて学校を通して行ったということでこういう率になっていると。就学前の場合には、幼稚園・保育所はもちろん配布したんですが、通園しておられない家庭の場合には郵送ということでした。ということですので若干低くなっている。それから次は調査対象の概要ですが、何かございますか。それから、3ページからですが就学前児童で小学生の保護者調査がどうなっているかということで、就労状況、その他ございますが何かお気付きのことがございましたら、今後参考にさせていただきますのでお願ひしたいと思ひます。1は保護者の就労状況ですね。それぞれのページの四角の枠で囲んであるのが概要ということになります。母親のほうはフルタイム、パートタイムがかなり近い数字が出ております。父親はフルタイムが圧倒的であると。それから今後の就労意向については希望している人は半分近くあると、就学前児童の場合ですね。就学前だともう少しあとからというふうになっていますね。それから5ページからは平日の定期的な教育保育事業利用についてということで、利用している率が高い。1週当たりの利用日数とか利用開始時刻、利用終了時刻、1日当たりの利用希望時間。それから9ページへいって、利用開始希望時刻、終了時刻。どうでしょうか。このあたりで未回答が多いものが若干ありますね。何かご意見、どなたかおられますか。10ページから、定期的な教育保育事業を利用したいという部分ですが、幼稚園が非常に多いと。特に利用したいという場合には比率は利用者事業の中の複数回答ですので多いんですが、特に利用したい、これについては保育所と幼稚園と、これも未回答が多いですね。11ページ、土日の利用希望。土曜日は半数ちょっと。日祝はあまり希望はないということですね。するとすれば利用開始時刻はこういう時刻で終了時刻はこのぐらいで少し幅がある。14ページですが、病気などで利用できなかったことがあったというのが4分の3ぐらいあると。その対応は母親が休んだというのが非常に多い。それから親族・知人に見てもらおうということですね。それから病児病後児施設の利用。利用したいというのが4割近くあるということですね。それから一時預かり等の利用に

事務局
会長

については、利用していないという人が1割。利用希望は不定期の利用希望は17ページですが3～4割。それは冠婚葬祭、学校行事、通院といったことが理由になっていますね。宿泊を伴う預かりの状況。それはしてもらわなければならないことがあったと。その時どうしたかという、親族・知人にみてもらったということがここではほとんどですね。19ページから地域子育て支援センターの利用について。利用しているのは1割弱。今後の利用意向は、利用したいという人が2割ぐらいあると。あまり利用する予定のない人が多いですね。利用希望回数は、あるとしても月1回程度。利用する人で増加してほしいのは月4回というのが結構あると。11回と多い人はいますけど分かれているということでしょうか。6の放課後や休日の過ごし方について21ページですが、小学生で自宅、習い事、これは上の学年になるほど多いということですね。放課後児童クラブについては下の学年ほど多いと。利用希望時刻ですが、これは一番上に18時までとありますので、それぞれ全部この時間までということですかね。

そうです。

この時間だけだと30分ですから、そういうことですね。このぐらいまで。ということは、希望は6時までぐらいが多いと。放課後児童クラブの利用状況、利用しているが3分の1ぐらいですか。利用している人はほぼウィークデーは利用していると。ここにもやはり6時までというところが多いと。それから23ページいきまして、やはり利用している場合に週5日。それから放課後児童クラブの利用希望ですが、利用したいが4割ですね。何年生までかという、やはり6年生まで利用したいと。利用できていない理由としては利用条件を満たしていない。その他がありますが、これは詳しくみてみたいとわからないと思います。利用したい希望は週5日で時間は6時まで。長期休業中も5日間。27ページですが放課後児童クラブの利用希望、土曜日は低学年の間は利用したい、高学年になっても利用したいというのと、利用する必要はないというのが、この2つと1つが半々のような感じでしょうか。日祝は必要ないという人が多い。長期休業中はやはり高学年になっても利用したい。放課後児童クラブ利用希望、小学生で利用したいが3分の2ぐらいあるということですね。それから26ページ地域活動や教育活動などへの参加について、参加したことがあるという方が6割ある。その内容はお祭りや文化祭など地域に根ざした活動、スポーツ活動、子ども会などの青少年団体の活動、ものづくりなどの体験学習活動というのが続いている。それから、子育てと職場の両立支援制度について。母親の場合には働いていなかったのが3か4は以上ですが、育児休業を取得したが36%と。父親の場合には取得していない人が8割と。その理由は、育児休業を取りにくい雰囲気があった、忙しかった、収入減になると。それから配偶者や祖父母等の親族にみてもらえたので制度を利用する必要がなかったというのが高いですね。母

親のほうでは、子育てや家事に専念するため退職したというのが最も多くなっております。それから育児休業の制度がなかったというのもありますね。31 ページ、復帰状況。母親の場合、職場に復帰したのが7割。父親の場合は75.6%。短時間勤務制度の利用状況ですが、母親は利用する必要がなかったという人が36%で、利用した人が25%で、利用しなかったが37%、だから全体で4分の1ぐらいが利用したと。父親の場合には利用する必要がなかったとか、利用しなかったと。子育てをしながら仕事をする上で必要なことは、家庭内の協力である。幼稚園や保育所等の充実。企業の改正、育児休業が多く、病児病後保育や小児医療体制の充実。それから全般について、子どもの外で遊ぶ回数は就学前ほぼ毎日遊んでいると。4日～5日。2日～3日というのがあとに続いている。外出する際に困ることが、安全に遊ぶ場所がないと。おむつ替えや授乳する場所や必要な設備がない。ベビーカーでの移動が不便。このようなものですね。それから遊び場について、望ましいこと。近くの遊び場があればいいということですね。安心して遊べる場所、雨の日に遊べる場所、遊具などの種類が充実していること。おもいっきり遊ぶために十分な広さがあること、そういうのが続いています。これは私の感想ですけども、都市部とそうでないところではだいぶ違うんですけども、都市部のイメージでいきますと遊ぶ場所があまりない、安全に遊ぶところがないということで、地方だとそうでもないのではと思うんですけど。それから35 ページ、子どもの発育発達面です。ある症状が4.1%、気になったきっかけとしては検診で指摘された、通っている施設の職員に指摘された、親族・友人・知人に指摘された、その他は詳しく見ないとわかりませんが。特に健診でわかるということが多かったですね。そのときにどうしたかということですが36 ページ、配偶者・親族に相談した。幼稚園・保育所の先生に相談した。かかりつけの医院や病院を受診した。しばらく様子を見た。知人・友人に相談した。それから発達の遅れや障害があった場合、やはり十分な教育が受けられる障がい児教育を充実する。保育や教育が受けられる体制を整備する。家庭において自立した生活ができるよう、制度やサービスを利用すると。健康診断で予防、治療、機能回復訓練など保健医療を充実。リハビリテーション機能を備えた施設を整備する。学習、スポーツ、レクリエーションなどを楽しむ場や機会を充実すること。その他にもありますが、それぞれいろんな工夫をどれについてもいろいろ、自由記述回答ですから、希望するところは沢山あるということですね。それから子育て観、子育ての楽しさが就学前児童と小学生の場合とあまり比率は変わらない。就学前の楽しいが42.6%、まあまあ楽しいが45.1%、これは結構なことだと思うんですが、まったく楽しくないというのが1%未満、あるいは、あまり楽しくないも1%未満とはいえあるということで放っておけないところがあるかもわからないですね。私も思い返して、楽しいと簡単にはちょっと言えなかったよ

うな気はするんですけど。しかし良かったなというふうには思いますよね。それから仕事と生活の調和が取れているかということで、そう思う、やや思うで40%以上ですね。ただ思わないというのがあるので、もっと聞いてみたいところがありますね。小学生だとそう思う、ややそう思うというのは合わせて60%ぐらいですか。やっぱり就学前は手が掛かるということからでしょうか。38 ページ、ゆったりとした気分で子どもと過ごしているか。十分ある、まあまああるを合わせて45%ぐらいですかね。小学生になってくるとだいぶ大きくなって60何%ですね。家族で協力した子育て、就学前、十分協力している、まあまあ協力しているということで9割ほどあると。小学生もそうですね、まったく協力していないと、あまり協力していないというのは数は少ないとはいえありますので、ちょっと気になる場所ですね。39 ページ、子育てをする上で気軽に相談できる人、就学前は祖父母と親族、友人、知人、幼稚園や保育所の先生。小学生の場合には友人、知人、祖父母等の親族、学校の先生ということで、小学校になりますと友人、知人のほうが少し多くなってきて、頼りにならないというほどではないんでしょうけども祖父母はちょっと減っている。県内の子育てに関する相談先について、認知度と利用経験ですが、子ども女性相談センターは半分ぐらい知っていると、利用経験はあまりないと。それから、さぬき市の家庭児童相談室、認知度は46.5%、利用経験はあまりないと。電話相談、認知度は半分近くあるけれども、利用経験はあまりないということです。地域の人からの声掛け、就学前はよくある、時々あるで9割近い。小学校もそうですね。この辺りなんかまったくないがあるのは困るのですが、ちょっとホッとするとところではあります。41 ページ、周囲の人に支えられている実感、大いにある、まあまあ、就学前、小学校ともに3ぐらいですか。まったくない、ほとんどないというのがかなりありますね。42 ページ、子育て家庭への支援活動。子どもが犯罪に巻き込まれないように見守る活動、親の急用時に子どもを預かる活動。子育て家庭に対する家事支援活動。特に犯罪に巻き込まれないようにということです。さぬき市の子育てのしやすさ、就学前は、しやすい町だと思おうというのが35%、思わない、どちらとも言えないが16%近くある。小学校は、少し思う人が多くて、思わない人が少し減るということです。43 ページ、思わない理由、小学生の保護者ですが、公園や児童館など子どもの遊び場が少ない。特に遊び場が少ないということです。交通機関も不便、保育サービスが充実していない、子育て参加の情報を得にくい。右のページですが、必要だと思われる支援策は、子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やすというのが非常に多く6割の人が思っていると。これも、さっきも複数回答ですね。子ども子育てに関する費用の負担軽減、安心して休まるようなイベントの機会の設定、この辺りが3割以上あると。いかがでしょうか。こんなもんかなというところでしょうかね。質問などもありました

	<p>らお願いしたいのですが。先ほど、最初のご説明にありましたように速報なので、また詳しい全体がわかってからもご意見いただけますので、よろしいですか。では、次に入らせていただきます。さぬき市の現状について、事務局からお願いします。</p>
事務局 会長	<p>(事務局説明 議案第2号)</p> <p>ありがとうございました。では、また目を通しておいていただきます。それでは、次の区域設定についてお願いします。</p>
事務局 会長	<p>(事務局説明 議案第3号)</p> <p>ありがとうございました。区域を1つとして定めるか、それとも、この案では新しい中学校区を単位にして3つに分けるかということですが、委員の皆様具体的なメリット、デメリット、あるいはお近くの方のことを想定してお考えいただいたらいいのではないかと思います。一般的には先ほどご説明がありましたように大きく設定すると柔軟に対応できると。保育所の場合は今現在設定をしていないんですけども、それと同じようにどこへも行けるというようなことですね。あるいはサービスそのものが全市ということになりますと、どこかにはあってそれが受けられるというのがある一方で、きめ細かいサービスの提供というので問題が出てくる場合もあるかもわからない。その辺りを具体的にお考えいただいたらどうでしょうか。</p>
委員	<p>具体的な方法の中で、社協のほうでも職員採用をする中で、市外市内の職員が相当おりますが、特に問題が出てきているとは聞いておりませんが職員になればさぬき市内に居住してほしいという要望はしている。ただ、その場合に従来からこういうような形でアンケート等にも出ておりますが、子育てをしながらの勤務、時間内とか病後児とか延長保育的なもの、緊急事態のときにある程度対応できる全体的なサービス面、区域の問題もどこへでも行けるという形の環境整備ですかね。そこら辺りの徹底をしてもらったら。やっぱりどちらかというが高松に比較してそういう面が劣っているのではないかとされているのが現状なんです。具体的には私自身もわかりませんが、そういった状況の中でいろいろな意味合いで居住も相対的にしてもらいたいし、就労もしてもらいたいという考え方でいくと、1区域全体をみてサービスの向上に努めてもらいたいというのが希望でございます。</p>
会長	<p>市外の方の場合に職場はこっちにあるわけですね。その場合に小さくするとやっぱり幼児期は難しくなると。</p>
委員	<p>そうではないですけど、それはサービス面です。居住は市内の中でもせっかく合併しているのですから、さぬき市統一でどこへ行ってもいいのではないかなと感じておりますけど。</p>
会長	<p>つまり市外の方の場合には市内に居住していただきたいと。</p>
委員	<p>そうです。</p>
会長	<p>すべて一体ということですね、政策としても。</p>

委員 副会長	はい。 やはり1つでまとめたほうが私らにとっては子育てをしやすいのではないかと。自由に保育を選ぶことができる。広域保育を行っておりますけど、これができなくなるんですかね。3箇所を分けるということは。
事務局	3箇所に区域を分けるのと広域保育の事業を実施するのは、またちょっと別です。基本的に区域を3つに分けてしまうとそれぞれに行けなくなってしまいうということなんです。だから広域保育というのはまたちょっと別だと思います。さぬき市内の中であっち行く、こっち行くができなくなる。まったくできなくなってしまいうわけではないのですが、原則そうしなさいという国からの方針なんです。
副会長	私ごとで申し訳ないんですけども、さぬき市の真ん中に位置しております、例えば津田から三木町へ通うとか、大川から志度経由で高松のほうに行くとかいう形の方が結構おられるのではないかとということで融通がいるんですけども、1つであるほうが自由に選んで保護者にとっては便利がいいものになるのかなというのを感じますね。
事務局	今のさぬき市が選択できるようにしていますので、それをわざわざ区域を設定してできなくなってしまうと、やっぱり保護者の方には混乱が生じますし、ご迷惑をかける面が多くなるのかなと思うんです。分けることによって例えば病児病後児保育を考えたときに、今は寒川にある市民病院で病児病後児保育をやっているんですけども、それを長尾でもしないといけない、志度でもしないといけないということになってくるんですよ。そうすると財政難のさぬき市としては非常に無理があるのかなと、厳しいところではあります。それを1つにしておくことによって、それはどこからでも利用できると思いますか可能になるということ。財政面も考えて2重、3重となる。昔の旧町みたいに、こっちが温泉つくったらこちらもつukらないといけない、というようなことになりかねないかなと。それだったら事業計画をつくる上において、さぬき市は1つですよということで事務局としてはお願いしたいかなというところですよ。
会長	皆さんはたぶんおわかりだと思いますけど、例えば北のほうから大体南へ車で行ったら時間はどのくらいかかるんですか。
事務局	大体、中心部から中心部の移動に関しては20分から30分あれば十分だと思います。
会長	つまり1つにしても、そんなに距離的、時間的にはムリはないということですね。
委員	1つにしたときのデメリットで細かいサービスが難しくなるというのは具体的に言うとどういうことですか。
事務局	行政サービスも一緒ですけど、具体的には想定していなかった。
委員	今のところそんなにクレームがあつてというようなことは。

事務局 委員	<p>わけではないです。</p> <p>細かく対応していないけど規模が大きくなったらできませんよ、みたいなことはない。</p>
事務局	<p>ないんですけども、現状でやっているサービスについては低下しないように当然していく。県下でもさぬき市の子育て支援はそんなに遅れているものではないと、担当者としては思っているのですが、ファミサポにしても休日保育にしても、それぞれ早くから取り組んでいるところがありますし、それがサービスを受けられないということにはならないように今後していく予定ではあります。</p>
委員	<p>人口推移を見るとおそろしいことになる。自分たちは右肩上がりになるんですけど。私は寒川町で生活しているんですけど、さぬき市全体のことを考えたらどこに行ってもいいというふうに思われるかもしれないんですけど、最も弱いというか最も生活しにくい人たちにとっては、すぐそこになれば困る。20分、30分圏内と言われましたけれども、それはたぶん普通に活動、生活できる人のことであって、本当に利用したい人たちが利用できなくなるというのが国の方針だと思うんです。実際はそういう人たちが困るのではないかと思う。統廃合の表を見てもびっくりするんですけども、天王中学なくなりましたよね。今さぬき市南中学になって、津田中が一緒になるということはあるのか。大人が連れてくるのだったら来れるかもしれないが、あの山を自転車でくるんですか。一緒にすることはただ単に人数が少なくなったから一緒にするとか、中学生の活動範囲で考えたら無理じゃないかなと思うのです。それをここで話をしたらいいのかわからないのですけれども、保育所を利用する親の立場としても、すぐそばに利用するところがあるのが最もいいと思います。だからすごく愕然としました。</p>
事務局	<p>統廃合のほうについては議会とも報告をしながら進めてはいるのですが、保育所については合併する前にも旧町に1つは残すということになっているんです。私立さんがそれぞれありますので、そこと連携しながらいこうかなど。幼稚園のほうも確かに統合のほうも考えておりますし、数的には減ってはいくんですが、それぞれの定員、施設の受け皿を考えると受け入れられている範囲には考えます。</p>
委員	<p>いわゆる区域を分けるか1つにするかということですが、例えばかつて私は高等学校の学区制というのがありまして、どちらかというと小学区制でした。この地域の人はこの学校ですよという。それが中学になって、今はどちらかというと1学区制ではなく2つですけども、いろいろな県外のところでフリーにしたところで起こってきた問題は、いわゆる学校ごとの格差を生じて、どこに行ってもいいというのだったら高校の場合だったら大学進学率とか学校の校風とかそういうふうなもので、どっとその学校へ行ってしまう。幼稚園・保育所も同じ。そういう偏りが、それぞれの幼稚園、保育園の</p>

	<p>各園独自のサービス、数的な向上につながっていけば問題はないんですけども、別の問題でいわゆる格差をつくり、保育園、幼稚園がそういう意味で子どもの数はあるんだけども廃園にならざるを得ないという現象が起こらないとは言い切れないと思うんです。そういうところも配慮しながら、どこを選んでもいいと言って本当に究極どこを選んでもいいのかどうか。それから、そこから起こってくる幼稚園、保育園の格差をいわゆるなくしていくための対策、方策、そういうふうなものがいますね。例えば施設名だけではありません。実際のいわゆるハードもソフトも1つにしたから、まったく1つをよりレベル高くというのは難しいかもしれませんが、将来廃園をつくるようなことだけでは避けてほしいと思います。保護者の方が行きたいところへ行けるような、いわゆる全市1区というんですかね、これは今の時代に必要かなとは思いますが。できれば、小学校、中学校もそういうふうな方向で。本当に境界を引かれた子どもの通学距離は大変なところになる。それを幼稚園や保育所にならないながら、もっと柔軟に通学区域が決められたいなど。そのためにも小学校、幼稚園、保育所の全区で頑張ってもらいたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>柔軟に選べるとか行けるという場合に気をつけなければいけないのは、例えば人気、不人気であるところには沢山集まるけども、そうでないところが減ってしまうということがあってはいけない、そこら辺は配慮しなければいけませんね。どこの保育園、幼稚園に行っても質の高いサービスば受けられるということが前提だということですね。我々が政策を進める上において、そういうところを十分に考慮してほしいと、そういうことですね。これは小学校ですけど、東京都は区ごとにありますね。その中で品川区はフリーにして自由に競争させると、やっぱりおかしな競争が出てくるらしいですからね。そういうところを配慮してほしいですね。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、今こちらの資料にもありましたように、この3月で閉鎖をする志度東保育所に勤務しています。最初の地域設定のことですが、うちの保護者さんが実際にうちの保育園がなくなりますので4月から園を転所をするなり幼稚園に行くなり子どもたちの行き場所を考えたときに、同じ志度地区ではなくて、うちの保育所は東のほうにありますのでどちらかというと西向きに仕事に行かれる保護者さんのほうが多かったので、家のある位置から考えたらひまわりさんがすごく近いので、ほとんど全員がひまわりさんに行くかなと思ったんですが、ひまわりさんは残念なことうちより東に向いていかないとはいけません。親御さんは勤務がほとんど西に向かっていくので、朝の忙しい時間に、もちろん小学校の兄弟さんがいる子も沢山いて、東に向いて子どもを送ってから西に行くのでは毎日のことなので親御さんが厳しいと。なので親御さんの職場の方向に園を移動される方が3分の1ぐらい実際にいらっしやいます。なので区域設定をしてしまうと、うちの保育所の保護</p>

	<p>者さんのニーズからみるとちょっと厳しいのかなと思いました。それと今さつきおっしゃられたように質の向上とかあるんですけど、今さぬき市の保育所に関してのことしかわからないのであれですが、一応公立の保育士はもちろん4月に移動します。移動も2～3年ごとに変わる、3年～4年でみんな変わっている園を体験してそこの園のいいところも悪いところも学んでいきますし、さぬき市の民間の保育士、保育所同士との交流もあって、2カ月に1回は訪問研修をしています。前は公立だけがしていたんですけど、ここ何年かは民間も入ってさぬき市全体で交流を今はしています。みんなそこでただその保育だけを見て話をするのではなくて、そのあとに毎回課題を決めて、そこの園でさぬき市保育所全体が良くなっていくような、例えば皆さん研修はどんなことをしていますかとか、いろいろな課題を決めて1時間くらい話し合いの場をつくったりして、今みんなで質の向上が図れるようにと民間も一緒にやっている状態です。以上です。</p>
会長	あまり狭い区域が設定されると、それはまたしにくいと。
委員	そうかなと思います。
委員	市の人が来て説明するんですか。保護者にこの園は閉園するんですという話を。
委員	もちろん説明していただきました。
委員	それでもう納得せざるを得ない。
委員	いろいろありましたが、やっぱり市の方針なので、できる限り子どもさんにしわ寄せが行かないようにという方向では、市と保護者さんとももちろん私たちも含めてみんなで何回か話し合いを重ねて。
委員	私は長尾保育所から来ているんですけど、これを見ると長尾保育所123%、すごく高い在籍率になっているんです。これを長尾に限定してしまうと、たらちね保育園と長尾保育所、どちらも100%を今超えている状態だと思うんです。結構年少のお子さんをお持ちの保護者の方から長尾保育所に入れなかったとかいうことをよく聞くんです。もし長尾に限定してしまったら、ちょっと大変なことになるのではないかなと思います。以上です。
副会長	長尾の保育所がもう一杯だと、そうするとうちが受け入れができる、また寒川町でも受け入れができるということで第1希望、第2希望、第3希望というふうに書いてもらいましたね。
委員	そうですね。長尾保育所で職場が近い、自宅が近いということで申し込むんですけど、途中で4月以降の方がやっぱり入れなくて、たらちねさんをお願いして、たらちねさんも一杯で石田の保育所に行ったとか、志度のほうに行ったとか結構聞くんです。それは今一体になっているので行けるんですけど、それがなくなったらこの待機児童の問題が出てくるのではないかと思います。
会長	どうやらあまり区域を分けないほうが良いというような意見になりつつ

<p>委員</p>	<p>あるんですかね。もうちょっと考えなければいけないことがあるというご意見はありますか。</p> <p>小学校で直接ではないんですけど、今小学校では幼稚園、保育所から上がってくる子どもたちが不登校にならないようにということで、子どもたちが翌年行く学校の雰囲気を知るとか、それから中に地域の知っている方もいるのでそういった中に慣れると1年生が入ってきたときに非常に落ち着いて学習ができるわけなんですけど、その子どもたちがどこに行っているかというのが、ひょっとするとその就労地域を中心に保育所、幼稚園に行っていたとすると、多くなると3割、4割の子どもたちが違う学校に行っている。あとは幼稚園で小学校との交流が、その地域によって温度差はあると思うんですけど、翌年来ない子どもたちがその学校に行っていると。雰囲気はわかると思うんですけど、そういうふうな少しねじれ現象が起こってくるのではないかとということと、どこかの城先を中心にしていくと、その入られる園が大体偏ってくるのではないかなと。先ほどもありました通り100%を超えると他に相談して回られると聞いたんですけど、小学校は今度どういうふうな手立てを取ればいいのかということを知っていて少し心配になってきたところです。これまで築いてきたものがガラッと崩れそうな。その子どもたちが小学校に来て学校に行きたくないというふうになってしまっても、極端な言い方ですけど困るかなと聞きながら思っていました。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>小学校は住所でいきますよね。</p>
<p>委員</p>	<p>はい、そうです。</p>
<p>会長</p>	<p>そこら辺りはどう思われますか。こうやればいいのかということはあるんですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほどの小学校と幼稚園、保育所の交流の話なんだけれども、各保育所、幼稚園なんかで次に自分がどこの小学校に行くかというのは、たぶんほとんど決められていると思うんです。ですから、例えば親の職場のほうの保育所に行っているてもこの小学校の交流日には必ずそちらの小学校に行っていると思うんです。ただ、たらちねさんと長尾小学校の交流をするときには、たらちねから長尾小学校を希望する子が交流に行くということをやっていますよね。</p>
<p>副会長</p>	<p>やっています。私どもの志度、津田、大川、寒川、5町からかけまして、4箇所の交流は年3回くらい行っていますし、どうしても親御さんが心配の方は4歳から地元の保育園なり幼稚園に行くという方もおられます。しかしそれができない方、もしくは別にいいですよとって、例えば去年では志度で1人、寒川で1人とかということもありましたけど、問題があるとかそういうことを聞いたことはないんです。</p>
<p>会長</p>	<p>市としても入学する予定の小学校へ交流をするようになっているんですか。今までも準備をしているんですね。</p>

事務局 会長 事務局	<p>準備というか小学校から案内がありますね。</p> <p>案内があつて行くことになっている。</p> <p>それは各幼稚園とか保育所の判断ですけど、そういうふうになっているわけ です。</p>
委員	<p>先生がおっしゃっているのは、たぶん鴨部さんとか小さいところだったら 幼稚園と学校が常に芋ほりをしませんかとか、そういう交流のことをおっし やっているんじゃないでしょうか。</p>
委員	<p>そうですね。</p>
委員	<p>たぶん鴨部さんとか松尾とかだったら幼保小の連携は年に1～2回とか 学校によって違うのですが、うちの小学校だったら年に2回しかないと す。それはただ行って、それも小学校のほうに設定していただいた活動に小 1時間いるだけであつて、結局行っても学校を見るだけみたいな感じなん です。私は今志度東保育所なので、中央小学校と中央幼稚園が隣接している のでプールも一緒に入ります、常に月に何回も交流をしているわけです。今だ ったら大方大半の子が地元にいるので、小学校になった時のことを、そうお っしゃっているのかなと思うんですけど、確かにそれは厳しいかなとちょっ と思いました。</p>
委員	<p>年に4回、さっき言われた通り学校に来て半日ぐらいいるんですが、保護 者の方が勤められていると連れて行けませんということになるので、実際 には学校の説明会のときにだけ来られるというケースが。声はかけるんです けど、来ていただけるときもあります、なかなか困難かなと感じているも のですから。</p>
会長	<p>何か行政的な方法があるかもわかりませんね。学校教育のほうにも。交流 をして、あまり切れてしまわない形で継続するような形で入学したいと。</p>
委員	<p>保育所、幼稚園のときから小学校と交流をしていると、やっぱり登校拒否 という率は全然違いますか。</p>
委員	<p>まず学校に来て落ち着いていますね。私も来てから始めたんですけど周り のことを聞いていると、幼稚園、保育所で最後3カ月くらいは席に着くとか いろんな時間設定を変えていただいたりとかしている、それもあつてと思 うんですけど知っている学校舎ですから使い勝手とか何がどこにある というのは4～5回すると子どもたちもわかるものですから、安心して机に 来たときから座っています。あまりウロウロというのは少ないように私個人 では感じているんですけど。</p>
委員	<p>だったら中学校の統合ではなくて小中の統合だったら雰囲気変わったで しょうね。今、小中で統合するという流れもあるとチラッと聞いたことがあ るんですけど、そんなに顕著に出るんだったら残念ですね。もうちょっと早く わかっていたら、うちの町使えましたね、そういうの。そしたらその学区 でいられたんですよ、子どもたちが。すごく遠くまで自転車なり送迎バス</p>

<p>委員 委員</p>	<p>に乗ってというのは、たぶん子どもたちには負担になるだろうなというのはわかっているの、そのフォローを誰がどういうふうにするかというのは、すごい課題ですよ。</p> <p>幼稚園、小学校がということですか。</p> <p>小学校だけではムリだと思うんです、そういう規模になってくると。さっきのアンケートにもあったんですけども、全く周りの人から支援を受けていないと答えられているパーセントも結構高かったじゃないですか。こんな田舎でとってお世話好きのおばちゃんたちがいっぱいいるはずのこのさぬき市であるパーセントというのは致命的だと思うんです。ということは、何かしら活動というか動かないと本当にこの中学校の統合というので子どもたちの心理的なプレッシャーとかを支えるのはできない、学校教育だけではたぶんムリなんじゃないかなと。もっと住民も参加させて住民にもっといろんなことを知ってもらわないと。元気な方はいっぱいおいでなはずなんです。なので、情報をどういうふうに渡していく、それがうまくいけばちょっと子どもたちの負担が減らせるのかなと。保育所だから小学校の行事には参加できません、お母さんたちは連れていけないのでというときにひと手間かけられるスタッフがいたら全然違うだろうし、幼稚園のほうはスムーズに小学校に上がれるのに保育所からだとしていうのはそれなりに結構厳しくなるかなという部分もあると思うのですが、もう少し何かアクションをこの会議でそれがヒントになって何か起こせるようになるといいなと思います。なので、今の小学校の情報は私はそのことを知らなかったの、そういう面はもっといろんな人に伝えていったほうがいい気はしました。だから保育所を利用されているお母さんで、もしそれに行きたかったけど行けない人がいたら手伝えるかもしれないとか、そういうバックアップができたらいいなという気がしたので、もう少しいろいろな情報が入るといいですね。</p>
<p>委員</p>	<p>たぶん中学校と小学校の統合は、また子どもたちの発達段階に応じて違のかなということも感じています。今の子どもたちに2年先には南中学校、今津田小学校なんですけど、聞いてみると期待感を持っている子が多いですね。たぶん多くの中に入っていけて活動できる。自分自身をそれまでに鍛えるといったらおかしいですけど、自分の希望を持っておこうというふうな気持ちがあるのかなと少し感じるころがあります。やっぱり中学校になるとある程度の友だちの輪ができたり、クラスが増えるということはいろいろなことができる可能性があるというのも一理あるなど。不安があるとは思いますが、そういうふうに子どもたちに聞いた感触は少し前向きな子どもたちが多いかなと感じています。</p>
<p>会長</p>	<p>せっかくそういう交流の機会があっても連れて行けないというような場合だと、それこそサポートがあるわけですよ。そういうのを利用できていないと、それこそ情報がないということもあるんです。</p>

事務局	<p>今の段階では実際にできていないことなので、それこそ今後の計画をつくっていくわけですから、そういう計画を盛り込んでいくのは1つの方法かなと。その計画を盛り込んで実際に実施するのに問題点を探して課題をクリアしていけば、それを実施するのは可能になってくるのかなと思いますけれども。</p>
会長	<p>その他も含めて、いろいろ工夫は必要ですし、それを実際に知らない人の場合、利用できない人がいるわけで、それを利用できるように、知ることができるようにする、業者のほうの働きかけも必要ですね。</p> <p>全体としてはさっきのような問題は、いろいろな形で補わなければいけないのですが。</p>
委員	<p>先ほど会長さんのほうから、いわゆる未回答のパーセンテージが高すぎないかというお話がありました。私もこのアンケートを見ながら未回答のパーセンテージの高さにある意味、保護者の方の将来的な不安というか、あまり将来を見ようとしめない姿勢なのか、それとも将来を不安に感じているから今のところは答えないでいようかなとか、いろいろと考えたんですけど、まだ私の中で答えが出ていませんが。このアンケートの手順の中で未回答のパーセンテージが20%を超えるものについて全部挙げてみて、その上で分析をしてみたいかな。そこに保護者の方の今このアンケートをした時点で感じておられることが見えてくるのではないかと私なりに思っています。それがどう出るかは、また話してその続きを項目を検討しながらやっているんですけども、やっぱり私自身先ほども申し上げましたけど、子ども自身は校長先生がおっしゃられましたように津田中学へ行ける津田小学校の子どもたち、少し遠いけどあれこれ言いながら学校が綺麗だとか言いながら期待をしていますけど、それと同じことを保護者の方に聞きますと、やっぱり不安のほうが大きいです。それをどういうふうに見ていくか。このアンケートの中にも子育てに関する保護者の不安が見えてくるような気がしますので、その他ではなくて未回答にしているという数字を何パーセント以上を全部挙げてみるのも1つではないかなと思います。気になったことです。</p>
会長	<p>未回答の人の場合に、例えば自由記述欄が書いてあるというようなことはなさそうですね。</p>
事務局 JMC	<p>未回答について JMC のほうから説明させていただきます。</p> <p>JMC の桧垣と言います。よろしくお願ひします。先ほどご指摘いただきました未回答の割合が多いということですが、例えば本日の資料10ページをご覧いただけたらと思います。そのうち特に利用したい事業ということで未回答が43.1%とかなり高い数字が出ております。こちらにつきましては現在速報値という形でお出しさせていただいております、ここの部分だけで言いますと丸を付けるのと、最も利用したいものには二重丸を付けてくださいとあります。丸が1つしか付いていない人、こういった人が上の利</p>

	<p>用したい、これは丸の人をカウントしていますので上にはカウントされているけれども二重丸が付いていないからカウントされていないということで未回答になっています。現在、最終の報告書をつくる段階で丸が1つの人については、それは二重丸とみなすという形でデータの置き換え作業も現在やっておりますので、未回答の割合につきましても最終段階になるとかなり減ると思います。あと、個数の部分で全部Nイコールというふうに書いていると思うんですけども、こちらは例えば利用したいと答えた人だけに聞いている設問があります。そういったところも例えば、利用したいですか、「はい」でその人に時間を聞く。「はい」と答えていないのに時間を書いている人もいらっしゃるんです。こういったところのデータの精査というものを現在やっておりますので、その部分は最終の3月でお出しできる報告書のほうで確認いただきたいと思っております。自由記述欄につきましても一通り全部データ化は行っております。その他でどういった意見があったかというものも入れさせていただいています。最終設問でかなり自由にお書きくださいという欄があったんです。あそこにつきましては、ほとんどの保護者の方がかなり書いていただいています、すごい量になっています。これをすべて提示するとなると、たぶんすごいページ数になってしまいますので、今現在どういった意見があったかというものの取りまとめをおこなっています。例えば保育所に関する意見が何件、経済的負担に対する支援が何件という形で分類わけしておりますので、それもその時点でお出しをさせていただきます。個別でそういうのをすべて見たいということであれば、それは事務局さんのほうにご相談いただけたらデータとしてはすべて起こしておりますので確認いただけるようになっております。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>前回の会議のときにアンケートの結果だけで見るのはあまりにも、という話が出たと思うんですけど、この回答を見た限りでは、今国が進めている幼保連携型認定こども園を希望している方たちというのは少ないですね。圧倒的に保育所、幼稚園を望んでいる結果になっていると思うんですけども、こういう結果については生かされますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>さぬき市の子ども・子育て会議としては、こういうニーズがあるのでということで注視させていただきます。国のほうのスケジュールが段々と押してきているんです。それに事務局のほうとしてもついて行くというのが正直ちょっと。27年にこれをスタートした時点で、いきなり事務局を離れてというのはちょっとムリがあるというところで、そういうのを踏まえてニーズ調査をした結果もみて移行期間は5年間あるわけですから、本当に移行しなければいけないのかもどうかも含めて、この期間をもって検討していったらいいのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどのご説明で、パーセンテージが質問によって違うということで先ほ</p>

	<p>どの私の意見も下ろします。あと1つだけよろしいですか。37 ページのところですけれども、このアンケートの結果をみるのに未回答にこだわったんです。その中で1つだけですが、7番の仕事と生活の調和が取れているかというところ。これはNイコール1834ですので、分母は1834ですね。その中で未回答が23.6%ですね。つまりワークライフバランスの調和が取れているかいないかをちょっと答えようがないという回答なんです。あわせて一方38 ページのところでは、家庭では協力した子育てができているというのが、十分協力していると、まあまあ協力しているのが就学前では両方足して94.4%、小学生では88.6%、まあまあ子育てについては家族は協力しているよ。でもワークライフバランスについては答えられないっていう、そのところに何かあるのか、まだよく考えられていませんけれども、言葉に対する不安なのかもわかりません。家庭と仕事のバランスと言われるとどうなのかということかもしれません。それはもう少し考えてみます。それと31 ページのアンケートですけれども、上のところに育児休業からの復帰状況があります。復帰したが母親は70.4%、父親は75.8%という、確かにいわゆるM曲線といわれるところで職場復帰、もしかしたら職場復帰が難しい職場状況にあったのかもしれませんが、父親のほうもあわせて75.8%というのが、その父親の丸の中が育児休業中取得後に離職した6.1%。これもちょっと気になります。父親がこれからどんどん育児休業を取っていきましょと。今日もテレビでもありましたけど愛媛の製菓会社はそれを義務化したと言っているニュースがありました。そういう中で男性が育児休業を取ったあと職場復帰できなかった人が、まだ育児休業中であるという人を勘案しても20%以上の人が復帰をできなかったという現状について、どうなんだろうということも1つこれから育児休業を取っていきましょという中で気になったものです。どういうふうに離職したのかという詳細は、このアンケートでは知ることができないんですけれども、そういう現状にさぬき市はまだあるのではないかなと、このところをもう少し考えればと思います。</p>
会長	<p>これも人数少ないから自由記述を比較的に見やすいと思いますので、見れば何か出てくるかもわかりませんね。</p>
委員 会長	<p>全部で33件ですものね。</p> <p>そしたら大きい区域でということでもよろしいでしょうか。ただし問題点があるので、そういうところはいろいろなサポートの仕方を考えなければいけない、工夫をしなければいけないというふうに思いますが、事務局よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>一応、予定したものはこれでよろしいですか。</p> <p>はい。その他で1件だけお知らせなのですが、お手元にお配りしております『すくすくジャパン』ですが、これが国が示しております子ども・子育て支援制度のシンボルマークになっております。また何かでお使いになるとき</p>

<p>委員 事務局 会長 事務局 会長 事務局 会長 事務局 会長</p>	<p>はご一報いただければよろしいかと思ひます。積極的に使つていただけますようをお願いをして終わりにしたいと思ひます。</p> <p>ホームページに出ていますか。</p> <p>はい、出ていますね。</p> <p>これ使うのは自由に使えるのですね。</p> <p>自由に使えると思ひます。</p> <p>何か書いておかなければいけないというはあるんですか。</p> <p>シンボルマークというのを書いていただければ。</p> <p>他に事務的な連絡とかございますか。そうしましたら長時間に渡つてありがとうございました。次回、詳細が報告できるでしょうね。</p> <p>次回3月20日に第3回目子ども・子育て会議を開催したいと思つておりますので、そのときにアンケートの結果でありますとか、自由記述のほうについてもお示しできると思つておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それではお疲れ様でございました。</p> <p>【終了】</p>
---	---